

# 生徒・教員の両者にとって持続可能な部活動を — 本校における部活動内規作成を例に —

指導部 佐藤 健太

## 1. はじめに

部活動は生徒の主体的な活動であるとはいえ、休日活動や公式戦・コンクール等への参加には顧問教員の対応・引率が不可欠であり、生徒・教員ともに活動の過熱化や過度な負担につながらないように配慮することが求められる。そんな中、本校における部活動に関する現状のルールを見直すとともに、実態に即しかつ整合性のとれた規定（内規）を作成することになった。今回はその整備経過及び内容の一部について、報告を行った。

## 2. 発表概要

生徒・教員ともに多忙を極め、お互いに部活動に時間を割く余裕がなくなっている現状をふまえ、両者にとって持続可能な部活動運営をめざし、部活動内規の作成に動き出した経緯を報告した。また、これまで行ってきた部活動運営をもとに、新たに以下のようなルールの追加・変更を行い、内規として明文化を進めている現状を紹介した。

- ・合宿の制限…原則行わない、活動の性質上必要のある団体のみ行い、その場合は団体数+1名の引率教員の確保及び引率者には必ず女性教員1名以上を含む等
- ・下校延長の制限…最大1時間・年間40回まで、大会・コンクール2週間前やコーチ来校日に限る等
- ・休日活動の制限…原則土曜の半日のみ、日曜は休養日とし活動の必要な場合は管理職の許可を得る等
- ・長期休業中の活動の制限・変更…原則平日の半日のみ、夏休み中は熱中症対策として午前中の活動を1時間前倒して(8:15～11:15)の活動可等

加えて、生徒に実施した「部活動の意識調査」結果について紹介し、本校の生徒がそれほど部活動に対して強いこだわりを持っておらず、勝利（結果）至上主義の規律的な活動よりも自分のペースでゆるやかな活動を望んでいる傾向であることを報告した。

## 3. 質疑応答

全体的に部活動を縮小する方向に動いていることについて、生徒や保護者、教員から反発や否定的な意見がないかといった質問を頂戴した。現状では生徒・保護者からクレームは出ていないが、必要に応じて理解を求めていく必要があること、また内規の完成に向け、今後協議を重ねながら細部を調整し、詰めていく方針であると回答した。

## 4. おわりに

新年度より内規の運用を開始し、その効果を慎重に見極めるとともに文科省から出された「運動部活動ガイドライン」の遵守、全国的な動向等も視野に検証を重ねていきたい。